

悔し涙も流した。震えるほどの喜びも味わった。すべてを明日へのチカラに変えて、名古屋から全国へ世界へ、飛躍しようとしているジュニアアスリート達。まさにいま青春と真ん中。彼ら彼女らのスポーツにかける熱き思いをお届けします。

日本一へ、シュート! 将来は日本代表として 世界を相手にプレーしたい。

あだち あかり
安達 朱里 さん

(女子ハンドボール・大同大学大同高等学校 3年生)

プロフィール ●2005年8月14日生まれ。

- 4歳より東海ハンドボールスクールで競技を始める。
 - 東海市立上野中学校ではハンドボール部に所属し、3年連続で愛知選抜に選出。
 - 大同大学大同高等学校に進学。1年生時に3月の全国高校選抜大会で3位に貢献。優秀選手に選ばれる。
- 今年、東海総体2023では優勝。



——4歳からハンドボールを始めたそうですが、きっかけは?
姉と兄が地元の東海ハンドボールスクールに通っていました。練習について行って、自然と私もハンドボールをプレーするようになりました。

——では10年以上になるわけですね。そこまで夢中になった理由はなんですか?

練習で取り組んだことが、試合でできた、そして試合に勝つことができると楽しいなと思います。その繰り返しです。

——ポジションのセンターバックはどんな役割がありますか?
攻撃をデザインしたりする司令塔です。難しいポジションですが、楽しいと言えば楽しいですし……。やっぱり難しいかな。それだけやりがいのあるポジションです。

——新チームになってキャプテンを任されたそうですが、普段の練習で気をつけていることはありますか?

周りをよく見て、声をかけたりコミュニケーションを意識して練習しています。今年のインターハイでは悔しい思いをしたので、メンタル部分を強くして、試合中でもブレないチームにしたいと思っています。

——当然、優勝を狙っていた?

はい、県大会、東海大会で優勝したので。

——今回は悔しい思いをしましたが、ハンドボールをしていて、うれしかったことは?

高校1年生の時の全国高校選抜大会で3位になったことです。それがあったからこそ、全国優勝をはっきりと目指していただけに、インターハイでの2回戦敗退はとても悔しかったです。

——自分自身のアピールポイントはどこだと思いますか?

うーん、プレー中の視野の広さ……。かな。

——原田監督から見ていかがでしょうか?

(原田監督) それにプラスして、シュートですね。ジャンプして投げるだけではなく、ランニングシュートや投げる手の角度を変化

させるなど、バリエーションも豊富です。そういったところを評価されて、先頃アンダー20の合宿に呼んでいただきました。

——なにかリフレッシュの方法はありますか?

アニメが好きでよく見ています。「ハイキュー!!」とか、やはりスポーツものが好きですね。

——では最後に、今後の目標、将来の夢を聞かせてください。

個人的には、年代別の日本代表になること。いつも意識はしています。将来はフル代表に選ばれる選手になりたいです。

チームとしては、まずは国体。その後に日本選手権がありますから、本戦に出ることです。

(原田監督) 日本選手権は、県大会で優勝したので、予選から出場する権利を得ています。大学生の秋リーグの優勝チームと試合をして勝ち、東海大会の予選を勝って、と本戦出場は簡単ではありません。なんとか実現させたいですね。

——こちらとしては地元で開催される2026年のアジア大会を意識してしまうのですが……。

(原田監督) 3年後はあっという間。大人の代表に入るのは狭き門です。でも、目標を高く持ってがんばってほしいと思っています。

——高校生活もあと半年、悔いのないように過ごしてください。将来を期待しています。本日はありがとうございます。

